

国労本部電送 No. 47	発信日 2024年9月27日	発信 企画部	責任者	受領者
------------------	-------------------	-----------	-----	-----

闘争指示第10号
2024年9月27日

エリア本部
各 闘争委員長 殿
地方本部

国鉄労働組合
中央闘争委員長 松川 聡

第12回国労フクシマ交流・視察学習会の取り組みについて

昨年8月24日から始まった「ALPS処理水」（放射能汚染水）の海洋放出から一年以上が経過した。東京電力は去る8月25日、通算8回目の放出が終了したと発表し、人為的ミスによるトラブルが発生した5回目の放出以外は、計画通りに進んでいるとしているが、燃料デブリを通過する汚染水は、トリチウムだけでなく60種を超える核種が含まれ、生態系への影響も未知数といわれている。

政府は処理水の海洋放出の安全性について「国民の間に一定程度浸透している」として、情報発信の客観性や透明性の確保に努めたと強調しているが、9月16日から開催された国際原子力機関（IAEA）の総会において、中国は処理水を「汚染水」と呼び、あらためて放出に「強く反対する」立場を繰り返した。岸田首相は日中間で日本産水産物の段階的な輸入再開を合意したとしているが、1年以上にわたって続く中国による輸入停止措置の影響で、漁業や水産業では厳しい状況が続き、処理水をめぐるフェイクなどの影響がいまなお根強く残っている。通常原発からの放出される処理水とは異なり、政府が安易に海洋放出を正当化するのは言語道断といわざるを得ない。

こうしたなか、福島第一原発の2号機では、9月10日から、事故で溶け落ちた核燃料と周囲の構造物が混ざり合った核燃料デブリの試験的な取り出しが初めて行われたが、1～3号機に堆積するデブリは計880トンに上ると推計され、今回、試験的採取するデブリは高線量に阻まれて耳かき1杯程度の3グラム以下にとどまり、事故から13年たっても格納容器内の状況をつかみきれていない。いまだに肝心のデブリ取り出しの完了は見通せず、当初掲げられた「廃炉まで30～40年」とした目標とは裏腹に、廃炉までさらに果てしない道のりが続くことは想像に難くない。

一方、東日本大震災と東京電力福島第1原発事故に伴う福島県内外への避難者数は、2024年2月1日時点で2万6,277人にのぼり、県外が2万279人、県内が5,993人、避難先不明者が5人とされている。

この間、医療費・介護費の補助が段階的に打ち切れつつあることは、避難生活への大きな打撃となっている。避難者にとっては、原子力緊急事態宣言下のなか生活基盤が失われていることには変わりはなく、さらにすでに打ち切られた地域と支援が続いている地域の避難者との間で分断が生じている現状にある。避難者にとって、支援の打ち切りは到底受け入れられるものではなく、被災者の声や権利を守るための取り組みの強化が求められている。

こうしたなか、JR常磐線は全線復旧から4年目を迎えたが、福島県富岡町、大熊町および双葉町に残された帰還困難区域はいまだ高い放射線量に阻まれて解除の見通しが立たず、日常生活を取り戻すにはほど遠い状況にある。引き続き当該の水戸・仙台地本とも連携しながら、常磐線の輸送業務の現場に携わるJRおよびグループ・協力会社社員の健康管理も含

めて、旅客輸送の安心と安全性確保に向け、引き続き注視していかなくてはならない。

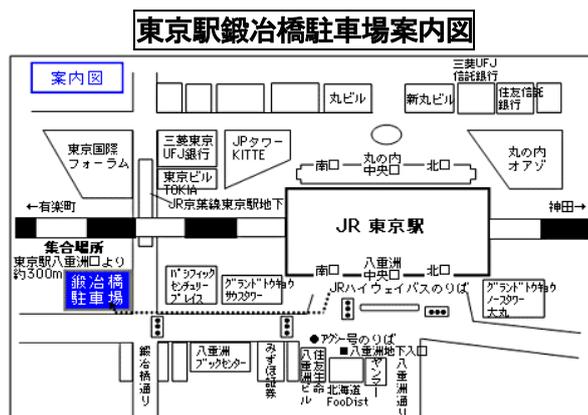
この間、国労は2013年11月から昨年まで11回にわたって関係地本である仙台地方本部と水戸地方本部を中心に全国の原発立地エリア・地方本部代表とともに被災地での交流・視察の取り組みを行ない、東電福島第一原発事故の教訓を風化させず、原発再稼働阻止と再生可能エネルギー政策への転換と脱原発社会の実現に向け、その認識を共有化させながら、ともに全国で運動を進める決意を固めてきた。

本年度においても第93回定期全国大会決定にもとづき、次世代の仲間を中心に、以下の通りに現地交流・視察学習会を実施するので各機関の取り組み方への協力を願います。

記

1. 日 程 2024年12月7日(土)～8日(日)
7日(土) 8時30分 東京駅鍛冶橋貸切バス駐車場集合
(7日12時20分 JR常磐線「いわき」駅での合流)
※ 東京駅鍛冶橋駐車場集合を基本とし、全行程をバスでの移動とする。但し、盛岡・秋田・仙台・水戸地本等の参加者はいわき駅からの合流とする。
8日(日) 第12回国労フクシマ交流学習会の終了後、いわき駅または東京駅までバスで移動して解散
 2. 内 容 ① 常磐線運転状況および避難指示解除区域等の視察
② トリチウム汚染水の海洋放出等の現状視察
③ 原発事故関連施設等の視察
④ 福島第一原発事故廃炉作業の現状と課題の学習
⑤ 現地からの報告と交流
 3. 主 催 国鉄労働組合本部
 4. 宿 泊 『五浦観光ホテル 大観荘』
〒319-1702 茨城県北茨城市大津町722 ☎ 0293-46-1111
 5. 参加要請 (目標数) 各機関はJR採用組合員を中心に参加の取り組みを行うこと。
参加要請の内訳は以下の通りとする。
東日本本部(仙台地本・水戸地本を除く)12名
仙台地本・水戸地本各3名
青年部5名
各エリア本部(東日本本部除く)のJR採用組合員のうち参加希望者
- ※ 11月25日(月)までに添付の報告用紙に参加者の氏名を記入し、本部まで返送願います。尚、具体的な行程や実施要綱については詳細が決まり次第、追って事務連絡を發します。

以 上



※ 東京駅八重洲南口改札下車徒歩4分